

1. コウノトリ・サイエンスカフェ 【2013年9月～2014年2月(全6回)】

このプログラムは、コウノトリに、あるいは地域に関心を持つ一般市民と研究者が研究に関する話題を共有し、質疑や討論を通じてテーマに関する理解を深化させる目的で実施されたもので、コウノトリに関する、または地域に関するテーマを選定して、話題提供者を1名招き、研究内容等の紹介を得た後、質疑や討論を行いました。



個々の開催日によりテーマは異なりますが、参加者は地域に関する最新の成果に触れられ、話題提供者は研究成果を一方向的に伝えるのではなく、参加者からの質問や反応を通じて、研究の社会的意義を再認識することができました。



足環の効用について講座を開催した日の様子(10月開催)



飼育員がコウノトリの今年の繁殖について講座を行っている様子

2. 山陰海岸ジオパーク散策モデルコース(但馬御火浦)をつくるワークショップ 【2013年10月29日(火)】

身近なものやことの地球科学的な背景を知ることで、地域の成り立ちを理論的に理解するために、新温泉町三尾地区の住民と協働して、地域の魅力を伝えるジオパークマップを作成しました。午前中に地域の見どころを洗い出すワークショップを実施し、その中から特に三尾地区の特徴を表す見どころを選択したモデルコースを作りました。

午後には、それらの見どころについて現地調査を実施し、参加者からは、「自分の住む地域にたくさん見どころがあることを改めて知ることができた。」「地域資源が有する科学的な背景を楽しく学ぶことができた。」などの声が聞かれました。



地域の見どころを洗い出すワークショップに取り組む参加者の方々



フィールド調査で発見した地域資源(約2000万年前の岩脈とペレライト)

3. オープニングイベント 「丹波電フェスタ 2013～篠山層群復元プロジェクト in 丹波～」 【2013年11月23日(土)】

2013年7月、北海道むかわ町でハドロサウルス科恐竜と見られる化石が発見され、今後の発掘への期待が高まっている中、「研究者が語る最新の国内化石発掘、「恐竜発掘最前線!」」と題してフォーラムを実施しました。



フォーラムの様子



パネルディスカッションの様子、パネリストは左から三枝氏、宮田氏、櫻井氏

むかわ町立穂別博物館と福井県立恐竜博物館からゲストスピーカーを迎え、それぞれの現場における恐竜化石の発掘調査の現状と今後の展望、および発掘調査における地域との協力のあり方を議論しました。

4. オープニングフォーラム 「コウノトリの野生復帰事業を活かした地域づくりフォーラム 多様な地域資源を誰がどう活かすのか一つなげる、つながる人と資源」 【2013年12月15日(日)】

コウノトリの野生復帰事業が南但馬地域へ広がった今、未来につながる地域づくりのあり方について共に考える必要があります。そこで、コウノトリを始めとする多様な地域資源について、それぞれの専門家の意見を基に再確認し、さらに、コウノトリの野生復帰を活かした地域づくりについて、取組団体が実践事例報告と意見交換を行うことで、未来につながる地域づくりのあり方について参加者とともに考える機会として本フォーラムを開催しました。



パネルディスカッションの様子



5. 兵庫「咲いテク」プログラム IN豊岡

【2013年11月24日(日)】

今回の「咲いテク」は兵庫県立豊岡高等学校を中心とした但馬地域全体の地質調査を通じて、(1)フィールドワークにより但馬海岸の地質的価値を理解する。(2)過去の海岸線をたどることで、過去の地形の変遷を知る。(3)大地の性質を理解し、その上に成り立つ地域の特色を理解する。以上の3点を目的として行われたものです。

宇日の海岸防波堤近くの緑色凝灰岩の入江。参加者らは、足下の石を拾い、観察している。